

チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 （注1）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み	那覇市
チームがつけたアイデア名 （公開）（注2）	天妃ぼうさい井戸端会議（防災は愛だ！）		

（注1）地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名 （公開）	なは市民協働大学院 那覇西チーム		
チーム属性 （公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2「今後、学生も巻き込もうと考えている」	
メンバー数 （公開）	4名 現段階で 18名、近日中には 20名に持って行ける		
代表者 （公開）	松田 博之		
メンバー （公開）	山内京子、福田適子		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 確認後ここに結果（○）を記入

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

天妃小学校区は海に近く、地盤が弱いことから地震や津波の災害に脆弱な地域です。しかし、防災について正しい知識や情報不足により、「自分事」として考えることができていないところがあり、また、一人暮らしの高齢者や外国人も多いものの、顔のみえる繋がりが少ないという課題があります。それらの課題を解決するために、まずは、「子どもを災害から守る」という切り口から、区内に住む20代から40代子育て世代を中心にしたメンバーで「天妃ぼうさい井戸端会議」設置し、「ぼうさい」をテーマに、リラックスして、何気ない疑問を みんなで話し合える場を作ります。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

具体的には、3つのグループを作ります。（下図参照）

真ん中には「ジュニアリーダーの会」として、子ども達自ら「自分の命は自分で守る」活動をしていきます。子ども達が地域のまち歩き（防災さんぽ）をして通学路の安全マップをつくり、「子ども110番の家」「太陽の家」などの避難場所を知る。子どもの頃から遊びを通して防災意識を持つことで、10年後、20年後の防災リーダーになることを目指します。

そして、わたしたち大人が左右の両輪となって、スクラムを組んで、子どもたちの安全を支えていく。

右腕には「防災居酒屋おやじの会」

地域に危険な場所、倒れそうなブロック塀はないか、お年寄りの家の庭木の枝うち剪定、粗大ごみの搬出のお手伝いはないか、おやじの会でできる活動を行います。

左腕には「天妃防災おしゃべりCafé」

スクールゾーンは安全なのか、防災バック、非常食はどうしようか、ママさんの会でできる活動を行います。

そのようなグループ活動をしながら、みんなで集まって気軽にユンタク（おしゃべり）をする場が「ぼうさい井戸端会議」です。難しいことは一切しません。気軽に集まって、ビールでもコーヒーでも飲みながら、ゆるーくおしゃべりする。無理なく活動することで 顔の見えるお付き合いをしていきます。

忘れていけないのは「高齢者のみなさん」です。「防災じんぶん喫茶」として、おじー、おばーにも参加してもらおう。

戦後の混乱期の沖縄を生きぬいてきたオジーオーバーには、命を守る知恵（じんぶん）があります。

「ぬちいど宝」（命が宝）を、若い世代や子供たちに伝えてもらおう。高齢者の居場所ができ、世代間交流に繋がり、文化の継承ができます。20年後、30年後のさらなる高齢化社会を見据えて、子どもの安全を守りながら、高齢者や障害を持った方が住みやすい笑顔のまちづくりをしていきたい。そして、2か月に1回程度、地域の内外から防災のブ口をお招きしてミニ講座をしたり、学生ボランティアの協力を得て、防災さんぽや防災訓練を行い、地域の防災力を強化していきたいと考えています。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

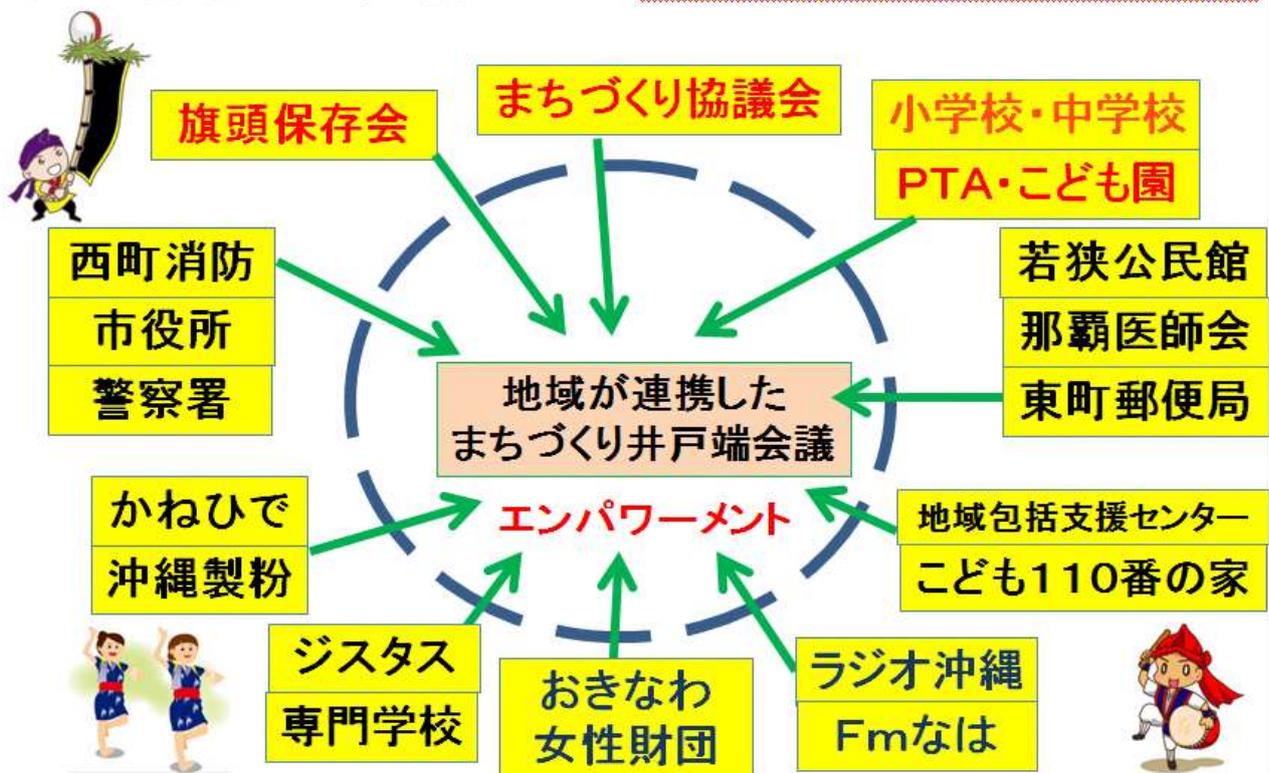
<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

那覇市立天妃小学校区は、久米、辻、西、東町、通堂町の5つの地域で構成され、6389世帯、10650人が住んでいます。そのうち0～14歳のこどもの割合が約11%とほぼ横ばいですが、65歳以上の高齢者は25%と4年前に比べて3%も急増しており、今後もその傾向は続くものと思われま。

そのような中、自治会加入率は約15%で、それぞれの自治会で自主防災組織はあるものの活動は不活発です。一方で、地域には校区まちづくり協議会や青少年健全育成協議会、PTA、地域包括支援センター、ボランティア団体、福祉団体、公民館、防災に強い団体、専門学校、企業、個人がそれぞれの立場で頑張っている地域活動をしています。

その多くの機関の共通点は「こどもを守る」ということがあることから、地域に住む意識の高い市民が「こども×防災」という視点から、まずは自ら考えることをきっかけとして活動していく。そのうえで、エンパワーメントで地域を構成する一人ひとりが、本来持っている力を発揮し、自らの意思決定により、自発的に行動できるようにすることを目指します。

活動を通じた終着点は （笑顔のまちづくり）



ぼうさい井戸端会議は通過点。新たなアイデアを取り入れて「まちづくり井戸端会議」へ。最終目標、終着点は、安心・安全で住みやすい笑顔のまちづくり、顔の見える地域づくり

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1 実現する主体

天妃小学校地域の住民及び関係者、なは協働大学院で学んだ修了者

2 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

（ヒト）すでに実現して活動を始めた。チラシ、ブログ、グループラインを設けて、参加を呼び掛けている。

現段階のメンバーは次のとおり（中学校 PTA 会長、まちづくり協議会長、公民館長、教員、市役

所

職員、保育士、福祉関係者、医師、気象台職員、市議会議員、防災キャンプ主宰者）

（モノ）地域の空き家（空き店舗）を活用して、「天妃こども商店」として運営し、活動の拠点、交流の場としたい。

（カネ）那覇市などの助成金を活用したい。

3 実現にいたる時間軸を含むプロセス

スローステップで 1 年間に 5 名を目標にメンバーを増やしていきたいが、現段階で賛同者が多数おり、目標は達成されている。10 年をかけて 50 名くらいに増やして活動していきたい。

令和4年度なは市民協働大学院

那覇西地区（防災は愛だ！チーム）の取組み

ちむどんどんするさ～ まちづくり

みんな大好き 天妃から発信！『天妃ぼうさい井戸端会議』

天妃小学校区の
安心・安全を楽しく考える地域団体

**みんなでつくる
地域の学び舎**



